

平成 24 年度 2次評価（基本施策評価）シート

基本施策名	27	秩序のなかにもにぎわいのある都市空間をつくる	評価責任者 (基本施策主管課長)	建設部中心市街地推進課長 東 弘久
生活課題	街なかが整然としつつも、にぎわいを生んでいる		生活課題に対する満足度 H27目標値	50.0 %

基本施策の現状分析及び意図

基本施策の体系		基本目標	快適
		政策	自然と調和し、秩序のあるまちづくり
①	市民意識調査結果	<p>市民意識調査によると、本基本施策の必要度は平均値の80.5%に対して79%とほぼ同等であるが、満足度は平均値の27.3%に対して11.7%と半分以下の数値となっている。</p> <p>参考   満足度（満足意識） 11.7 %    必要度 79.0 %</p>	
③	基本施策の現状と課題	<p>①中心市街地では住民の郊外流出による人口の減少、少子高齢化、商業機能の低迷による地域核としての求心力の低下、城下町の歴史的景観の崩壊などが進んでおり、都市機能の充実や歴史的景観の保全など早急な対応が必要である。</p> <p>②現在の市域には4つの都市計画区域と都市計画区域外の地域が混在しており、本市として一体的な都市づくりを推進していくためには、都市計画区域の再編を行い、区域区分の方針を定める必要がある。</p> <p>③交通の結節点に位置するポテンシャルの高い駅周辺において、適正な土地利用が図られていないため、安全面及び有効活用の視点から整備が必要である。</p>	
④	基本施策の意図、今後の展望	<p>①中心市街地活性化基本計画に活性化を図るための事業として位置づけられた上野市駅前地区第一種市街地再開発事業をはじめとする諸事業の実施に向けた取組みを進めることにより、商業施設を含めた都市機能の充実を図る。また、町家の修景事業や道路の美装化等、歴史的景観の保全を図り、交流人口の増加、まちなか居住の促進などまちなかの賑わいを誘引する。</p> <p>②将来展望に立った望ましい都市形成を図るため、都市マスタープランに基づき都市計画区域の再編を行い、全市統一した土地利用管理手法の策定を図る。</p> <p>③交通結節点に位置するポテンシャルの高い駅のひとつで、本市の南の玄関口機能を有する伊賀神戸駅へのアクセス道路の拡幅整備を推進する。</p>	

⑤ 基本施策指標（総合計画数値目標）

基本施策指標名	単位	過年度実績		評価年度			目標値			指標の説明
		H22	H23	H24	H25	H27	H22	H23	H27	
1 市街地再開発整備	目標	ha	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	現況再開発整備面積(実数)	
	実績	ha	0.0	0.2						
	達成率	%	0.0	18.2						
2 都市計画区域の再編の進捗率	目標	%	50.0	70.0	70.0	80.0	90.0	作業進捗ベース		
	実績	%	40.0	60.0						
	達成率	%	80.0	85.7						
3 まちなか回遊者数	目標	人	3,400.0	3,600.0	4,270.0	4,270.0	4,270.0	中心市街地の定点通過者数		
	実績	人	1,889.0	2,223.0						
	達成率	%	55.6	61.8						
4 伊賀神戸駅周辺整備事業の進捗率	目標	%	8.0	50.0	40.0	100.0	100.0	事業費ベース		
	実績	%	7.0	20.0						
	達成率	%	87.5	40.0						
5 道路美装化整備	目標	m	3,800.0	3,800.0	3,800.0	3,800.0	3,800.0	道路美装化整備延長(実数)		
	実績	m	800.0	1,155.0						
	達成率	%	21.1	30.4						
6 都市計画街路整備	目標	km	40.0	40.1	40.1	40.1	40.1	目標年街路整備延長(実数)		
	実績	km	39.7	39.7						
	達成率	%	99.3	99.0						
	目標									
	実績									
	達成率	%								
	目標									
	実績									
	達成率	%								

⑥ 基本施策構成事務事業の評価

基本施策を構成する事務事業名	担当課	I D	事業名	改善余地の有無	事業費(人件費込、単位:千円)			基本施策貢献順位
					H23 決算額	H24 予算額	H25 所要額	
1	建設部都市計画課	667	伊賀神戸駅前周辺整備事業	無	23,275	22,575	69,000	3
2	建設部都市計画課	675	都市計画調査策定等事業	無	11,476	16,642	16,600	1
3	建設部都市計画課	678	市街地整備推進事業	無	2,371	2,517	2,525	3
4	建設部中心市街地推進課	679	市街地整備推進事業(町家活用推進事業費)	無	4,100	2,165	2,165	3
5	建設部都市計画課	680	街なみ環境整備事業(都市景観)	無	8,676	12,350	12,350	2
6	建設部中心市街地推進課	681	街なみ環境整備事業(整備事業)	無	119,151	179,347	203,995	2
7	建設部中心市街地推進課	1072	市駅前地区市街地再開発事業	無	3,281,190	720,267	0	1
8	建設部中心市街地推進課	2438	市街地整備推進事業費	無	0	5,682	7,764	3
9								
10								
( 以下 紙 )								
事業費合計					3,450,239	961,545	314,399	

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な事業(総合計画実施計画の期間内に実施を予定する事業)

事業名	事業主体	事業内容等

⑧ 基本施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
1 基本施策指標の分析	中心市街地活性化基本計画に位置づけられている『上野市駅前地区第一種市街地再開発事業』、『城下町の風情を色濃く残すまちの保全整備』については、計画期間が設定されていることから、スケジュールどおり事業を推進していくことが重要である。また、都市計画区域の再編及び区域区分の方針については、市民合意の形成を、また、伊賀神戸駅周辺地区整備
2 事業構成の適当性(手段として最適か?)	『上野市駅前地区第一種市街地再開発事業』、『城下町の風情を色濃く残すまちの保全整備』については、伊賀市中心市街地活性化協議会、上野商工会議所、民間団体等と連携して、進めていく必要がある。都市計画区域の再編と区域区分の方針については、当市の土地利用にかかる根本の考え方であり、将来を見据えた手法を策定するうえで、市民の理解を得ることが重要である。伊賀神戸駅前周辺整備については、県道バイパスへの接続の関係もあり、県と十分協議しながら進める必要がある。
3 役割分担の妥当性	各事業において、関係機関・各種団体と連携を図りながら、行政が主体的に推進する必要がある。
4 (今後の方向性、事業の見直しについて等)	中心市街地活性化基本計画に位置づけられた事業については、認定計画の完了予定時期である平成25年3月までに、3つの目標数値(歩行者・自転車通行量、小売商業年間販売額、コミュニティバスの利用者数)を満たすよう事業推進を図りつつ、期間の延長や2期計画の必要性を検討しなければならない。また、都市計画区域の再編と区域区分の方針については、当市の土地利用にかかる根本の考え方であり、将来を見据えた計画を策定しなければならない。